

「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版2021年8月号・特集はこちら



「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。総合型選抜や学校推薦型選抜(以下、推薦型選抜)を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

3年次1学期

志望理由書作成の支援

第1志望届や図書レポートを基に、内面を掘り下げた問いを繰り返す

北海道旭川永嶺高校^{えいりょう} 進路指導部と3年次団

マイ・ストーリー
3年次1学期
の課題

- ・ 大学・学部の特徴の要約と、自身の活動記録に終始した志望理由書に、志望に至るまでのプロセスを盛り込む
- ・ 自分の将来と結びつく志望校を見いださせる

3年次4月からの個別指導で、将来像の言語化を支援

2016年度に2校が統合して開校した北海道旭川永嶺高校は、生徒が進路意識を早期から高められるよう、進路指導を充実させてきた。現在は、1年次から進路講演会や模擬試験などの振り返りを「キャリアノート」に蓄積させ、2年次には、看護体験や小学校見学などの体験学習を実施。2年次の1月には、目標とする大学とその志望理由を約800字で書く「第1志望届」を提出させて、3年次進級を前に、受験生としての自覚を促している。

加えて、推薦型選抜の希望者には、2年次の春季休業中、志望学部・学科に関する書籍を読んで感想を書く「図書レポート」を課す。専門分野について意見を語れるだけの知識や書く力があるかを、生徒に確認させるためだ。そのようにして、生徒が自身の進路に真摯に向き合い、「マイ・ストーリー」を言語化する機会を設けるなど、希望進路の実現に向けて早く動き出すための支援体制を整えたと、進路指導部長の水野雅文先生は語る。

「生徒は、日々の学習や部活動などに追われて将来を考えられていないだけで、きっかけさえあれば動き出します。それぞれの取り組

みの後には、自発的に志望理由書の添削を教師に依頼してきたり、知識不足を痛感して読書に励むようになったりする生徒もいます」

3年次4月には、例年約40人を超える推薦型選抜希望者一人ひとりに担当教師をつけ、志望理由書作成の個別支援を本格化させる。2年次の第1志望届では、大学案内などを参照して要約した大学の特徴や研究内容を、理由もなく自分の志望と合致していると記述するだけの生徒が大半だ。体験談を書いても、活動内容の説明に終始し、体験によってもたらされた成長や将来像を、大学の学びに結びつけて表現することができていない。そこで、キャリアノートや第1志望届、図書レポート、生徒が自身の長所や短所をまとめた「自己紹介カルテ」などを基に、生徒に丁寧な志望に至るまでのプロセスを問いかけるなどして、志望理由書の作成を支援していると、3年次主任の安井健治先生は話す。

「教師の『どうして?』『なぜ?』という問いかけに、生徒は、ただただしくしか答えられない自分に気づき、内面を掘り上げていきます。時間がかかっても、そうしたやり取りを繰り返して、内面を言語化させて、『マイ・ストーリー』を形づくっていきます」

志望校と将来像のずれが早めに顕在化し、問い直しが可能に

志望理由書作成の個別支援は、将来像に対



マイストーリー

Light blue horizontal bar

Orange horizontal bar



Orange horizontal bar



Orange horizontal bar



Dark orange horizontal bar

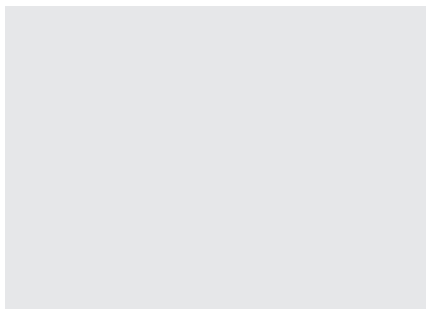


Orange horizontal bar



Orange horizontal bar

For Teacher Section



VIEWnext ONLINE ▶▶▶

